

安全安心

あなたは本当に安全運転していますか？

千葉県市町村交通災害共済

■加齢に安全運転を続けていくために

交通事故による死者が減少する中で、高齢者の運転による交通事故が増加しています。加齢にともない運動機能が低下するだけでなく、判断力や注意力も低下します。

加齢とともに、視界が狭くなることにより確認が不十分であったり、標識を見落とし、とっさの判断に時間がかかることなどが事故の原因にあげられます。さらに事故を回避するためには同時に複数の状況判断する能力が必要とされ、これが低下傾向にあることも原因といわれています。

高齢者ドライバーの事故の特徴としては、一時不停止によるものや狭い道路の信号機のない交差点やカーブでの交通事故が多いとされています。

こうしたことが指摘される中で、「安全運転を心がけている」「安全確認をしている」といったように自分

では安全意識が強い方だと思っっている高齢者が多いことも事実です。

通常は何らかの思いも寄らないような疾病やでき事に合わない限り、自分の日常生活上の行動パターンを変化させることは難しいものですが、誰でも体験する身体機能の低下を自覚することによって、誰もが加齢に安全運転を続けたいものです。

高齢者は過去には歩行者として被害者側にいたが、現在ではドライバーとして加害者側になることもまれではなくなっている。

■自転車と歩行者の事故

千葉県市町村総合事務組合では、昭和四十三年から住民の交通災害共済事業を実施していますが、平成十八年四月から九月までに支払われた交通災害共済見舞金四七三件のうち自転車と歩行者の事故の内容を調べました。

まず、自転車に乗っていて交通事故によりケガをしたものが一一三件（二三・九％）あり、この中には事故

時の状態が自転車に同乗中のもの五件、自転車対自転車三件、自転車対歩行者一件が含まれますが、事故類型では車両単独（転倒）が二九件（一人死亡）で最も多く、出会い頭衝突二六件、側面衝突一二件となっています。

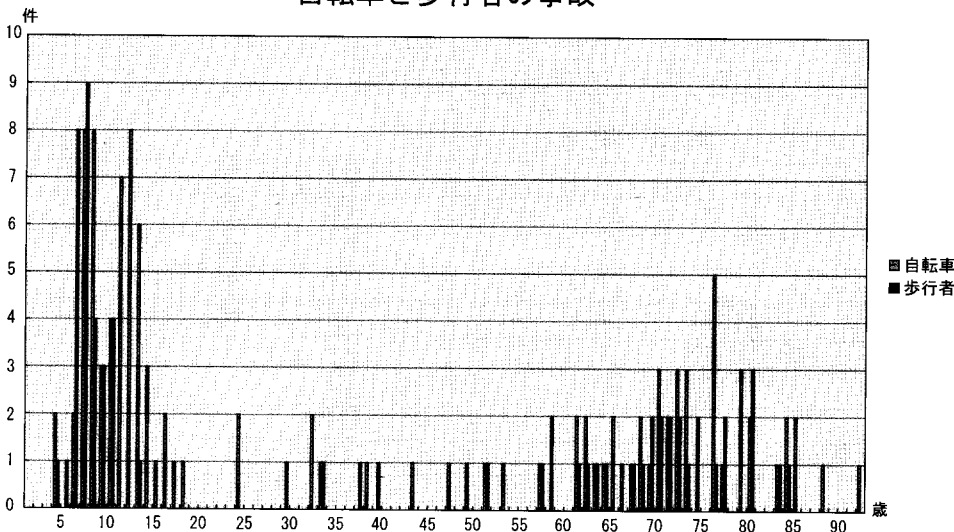
年齢別では十五歳未満五〇件、六十五歳以上三六件と、こどもと高齢者で四分の三以上を占めています。事故の相手方の年齢はというと三〇件が六十五歳以上となっています。

歩行者として事故にあつたものは六四件（二三・二％）あり、このうち二件は自転車との事故でした。

年齢別では十歳以下が三〇件、六十歳以上が二五件となっています。相手方の年齢は六十五歳以上が二八件、十八歳以上二十九歳以下が二六件となっており、この結果からも高齢者の方には被害者ばかりでなく加害者にならないための注意も必要だといえます。

なお、相手不明のもの、

自転車と歩行者の事故



つまりひき逃げ事件が、自転車四件、歩行者五件となっています。

事故に遭遇したら、ケガをした人の救護が一番大切ですが、ひき逃げした者を許さないとしたら優秀な目撃者になるのかもしれませんが。

交通災害共済事故相談員

堀越 正一